

平成 30(2018) 年度前期授業改善アンケート集計結果

2018年11月27日
教務委員 京相 雅樹

1. データ概要

表1 概要

集計科目数	21 科目 (H29:23, H28:17, H27:17, H26:22, H25:19, H24:15, H23:16)
平均回収率	85.0% (集計科目について、登録者数に占める割合) (H29:90.8%, H28:88.0%)
実施日	2018年5月18日～7月23日

2. 各項目の評価点

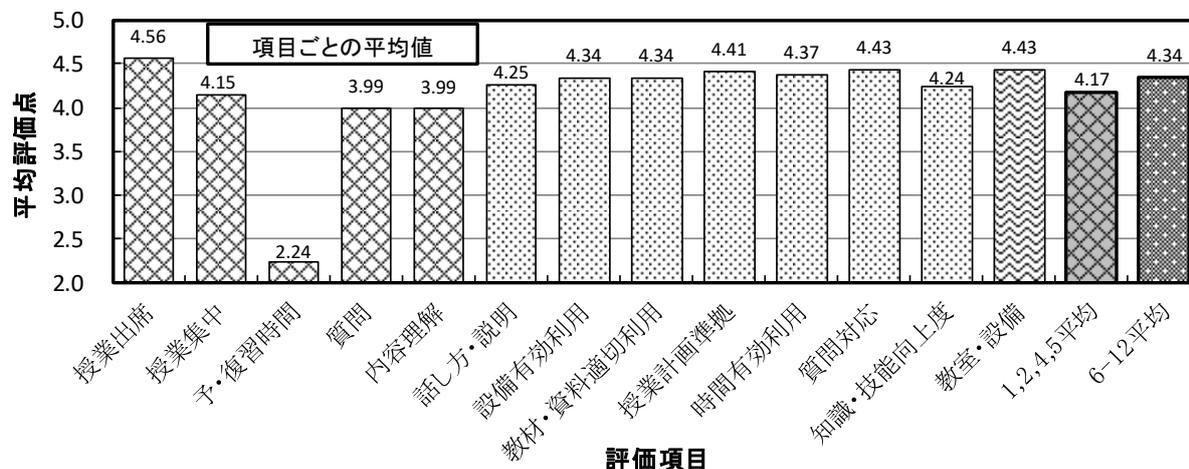


図1 評価項目ごとの平均評価点

表2 アンケート項目

●学生として	●授業について
① 遅刻や欠席をせずに出席しましたか	⑥ 話し方や説明は分かりやすかったですか
② 居眠りや私語をせず授業に集中しましたか	⑦ コンピュータ、黒板などの使い方は適切でしたか
③ 授業1回に対し宿題を含めた予復習を何時間しましたか (右の数字は時間)	⑧ 教材(テキスト、プリントなど)の使い方は適切でしたか
④ わからないときに質問をしましたか	⑨ 授業計画(シラバス)に沿って授業が展開されましたか
⑤ 授業の内容は十分に理解できましたか	⑩ 授業時間を有効に使っていましたか
	⑪ 質問に適切に対応してくれましたか
	⑫ 総合的にみてこの授業で力は付きましたか
	●施設について
	⑬ 教室の広さや設備は適切でしたか

※ 平成 29 年度から「授業評価アンケート」となり、質問項目が変更された

3. 対応するアンケート項目の年次推移

表3 対応する項目の年次推移

	集計科目数	学生 (1-5)	教員 (6-12)	①授業出席	④質問	⑤理解	⑥聞き取り易さ	⑦設備有効利用	⑧配布資料等	⑨授業計画準拠	⑪理解度確認・質問受付
2011年度前期	16	3.95	4.24	4.33	3.65	4.01	4.28	4.34		4.21	4.32
2012年度前期	15	4.06	4.42	4.31	3.82	4.19	4.49	4.53		4.43	4.17
2013年度前期	20	3.63	4.15	4.36	3.22	3.65	4.24	4.21	4.06	4.14	4.24
2014年度前期	23	3.68	4.16	4.39	3.28	3.72	4.25	4.21	4.14	4.12	4.12
2015年度前期	21	3.77	4.20	4.47	3.33	3.82	4.28	4.26	4.20	4.16	4.17
2016年度前期	17	3.89	4.26	4.47	3.57	3.92	4.34	4.31	4.22	4.22	4.16
2017年度前期	23	4.05	4.24	4.52	3.66	3.89	4.26	4.26	4.18	4.30	4.29
2018年度前期	21	4.17	4.34	4.56	3.99	3.99	4.25	4.34	4.34	4.41	4.47

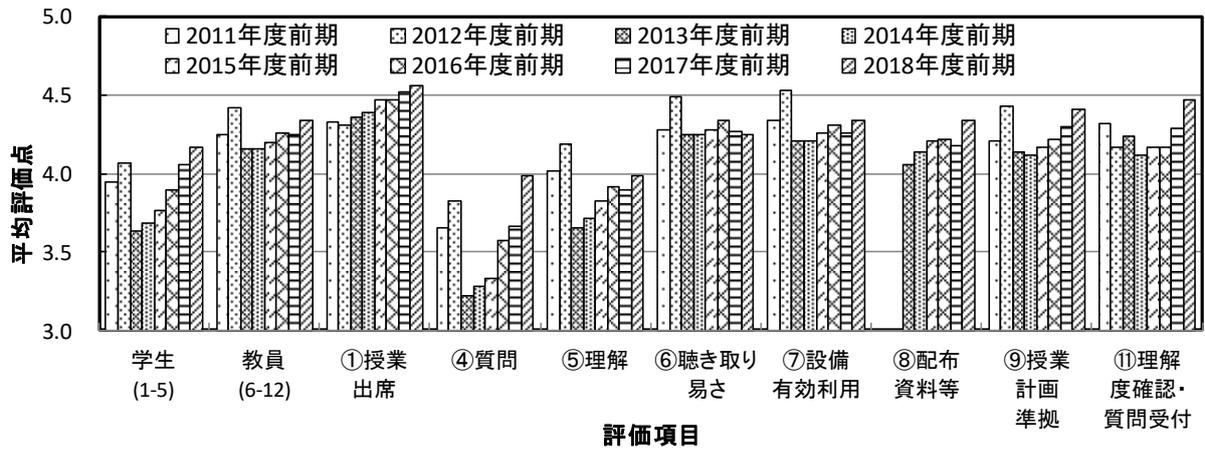


図2 対応する項目の年次推移

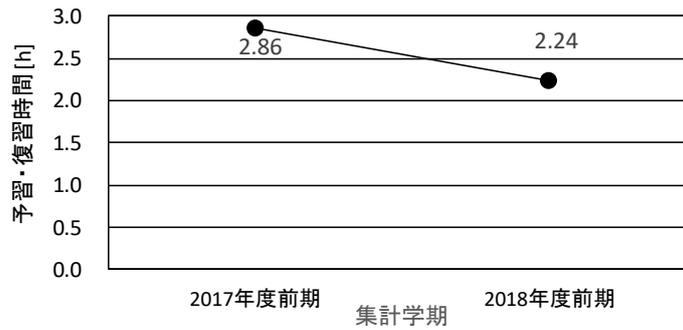


図3 予習・復習時間の年次推移

4. 科目ごとの詳細データ

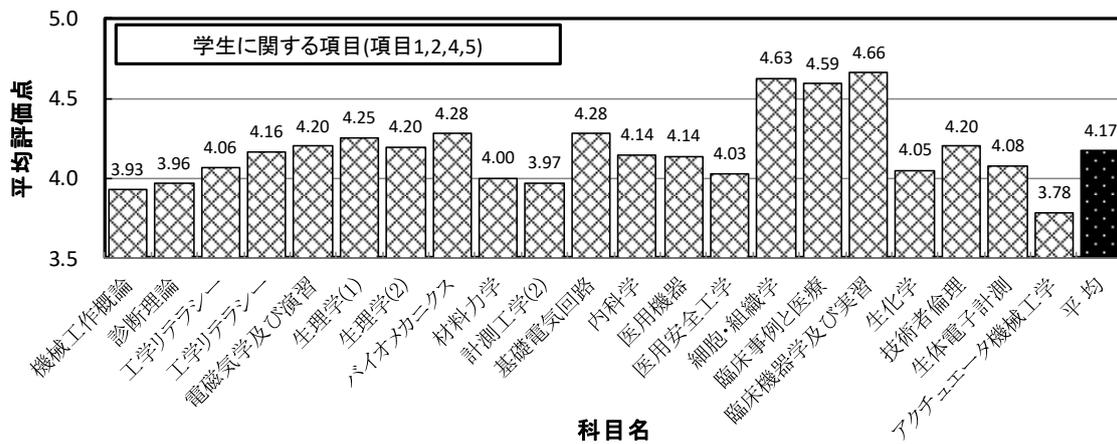


図4 学生に関する項目の平均値(科目ごと)

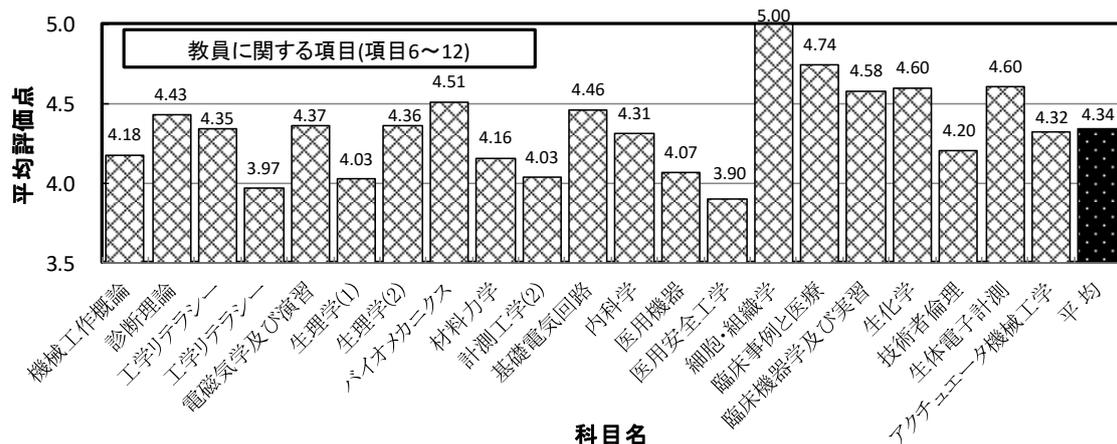


図5 教員に関する項目の平均値(科目ごと)

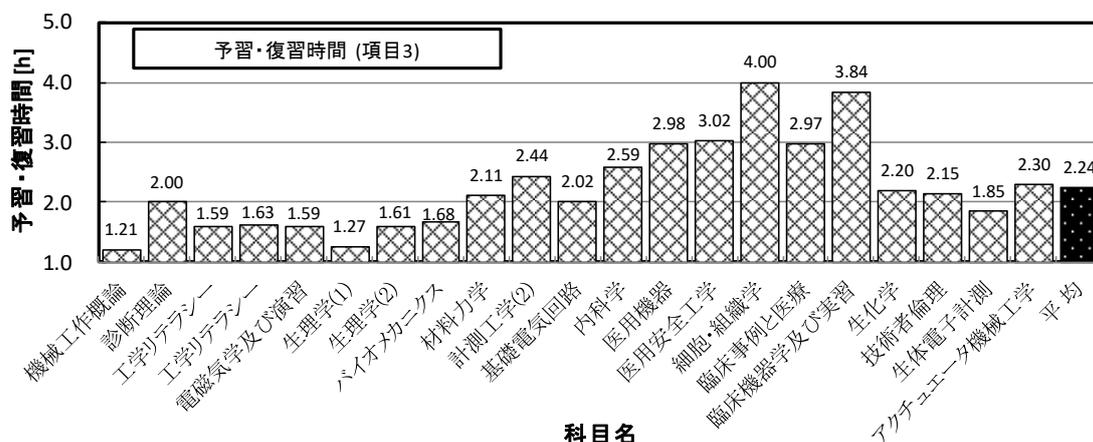


図6 予習・復習時間(科目ごと)

5. データについての考察

5.1 平成30年度前期のデータについて

図1に項目ごとの得点を示した。項目番号とアンケート項目の対応は表2の通りである。

まず、図1の学生自身に関する項目(項目1~5)については、予習・復習時間を除いた項目の平均値は4点をを超えており、良い水準にあると言える。質問をしたかどうか、内容を理解できたかどうかの項目は特に例年低い評価であったが、今回はほぼ4点であり、図2の年次推移から分かるように、向上の傾向にあることが分かる。教員に関する項目(項目6~12)については例年通り高い水準にあることが分かる。話し方や説明が分かりやすかったか、この授業で力が付いたか、の2項目に関しては、教員に関する項目の平均値より低い値となっていることから、これらの項目が改善対象と考えられる。

5.2 データの推移について

次に、図2に示されている、アンケート項目が変更される前から共通して調査されている項目に関する年次推移についてであるが、概して年々改善傾向にあり、好ましい状況である。ただし、話し方や説明が分かりやすかったか、設備等を有効・適切に利用していたかについては頭打ちの傾向となっている。

また、昨年度から調査を開始した、授業外学習時間については、2.24時間となっており、昨年度前期の2.86時間を下回っている点については対策が必要と考えられる。ちなみに、平成29年度後期の全科目の平均値は2.4時間であった。また、2.24時間は科目ごとの平均値をさらに平均した値であるため、受講者数が考慮されていない。受講者数を考慮して重み付け加算を求め、ひとり当たりの平均学習時間を計算し直すと、2.14時間となった。個別の科目で見ると、必修の実習科目で3.8時間となっており、レポート提出に費やす時間がこれに含まれていると思われる。また講義科目では最少が1.2時間、最大が4.0時間となっており、科目ごとの開きが大きくなっている。

5.3 科目ごとの詳細データについて

図4、5には、科目ごとの評価点を学生自身に関する項目の平均値と、教員に関する項目の平均値として示している。おおよそ4点以上の得点であることが分かるが、同時に科目ごとにばらつきがあることが分かる。この点は学科の教育改善検討会議などで原因や対応方法について話し合う必要があるとんが得られる。

図6には予習、復習時間の科目ごとの平均値が示されているが、やはり実習等、レポートや宿題を課す科目で授業において時間が長くなっている。他の科目でもレポート等の課題を取り入れることにより、授業外の時間を有効に利用するように改良することができると考えられる。